

第3学年次における研修キャンプの教育効果について

かとり なおみ
○香取 尚美、望月 泰男、谷口 智也、生江 麻代、檜山 由香里、入沢 薫、山藤 賢

【はじめに】本校では、国家試験の合格は大きな目標の一つではあるが、それよりも社会に出てからの、その学生の成長を後押しすることのほうを学校の理念として大切にし、これまでも本学会で数多くの報告を行ってきた。また同時に「全員卒業・全員合格」というスローガンの元、その教育内容や試みも報告してきたが、昨年度の卒業生74名も、全員が国家試験に合格することが出来た。これで、幸いにも、3年連続で、最高学年において一人の留年生も出すことなく、国家試験の合格率100%を達成できている。その背景には、もちろん、国家試験の難易度や運も大きいと思われるが、国試対策や座学のみならず、3年間を通じて行っている様々な試みも影響はあるのではないかと考え実践している。その中で、新たに取り組み始めた、3年次の研修キャンプについて、考察を加えて報告する。

【対象】昨年度の卒業生74名を対象としている。最高学年である3年次に、4月～9月までの臨地実習を終えたあと、10月に2泊3日で山中湖畔にて研修キャンプを行った。目的として、臨地実習からの切り替え、勉強内容の整理と課題の抽出、学年としての和の向上、などを掲げ、全学生及び教職員も参加の元、活動を行った。

【考察】勉強に励む初日から始まり、二日目からは一転して、ペンを置いて、森や沢の世界で過ごす一日とし、三日目は、富士山の世界へと向かい、全員での登山や、砂走り、ソロ活動の時間など、仲間との時間と自分との時間の両方を体感しつつ、自分自身の内面と向き合うような時間となった。終了後の感想には、この時間を過ごしたことによる、自分自身の在り方や、仲間の大切さ、これからの試験、また社会への向き合い方など、様々な感覚の広がりを感じる事が出来た。まず、このキャンプの成功には、日頃より本校教育に理解を示し、サポートして下さる多数の外部スタッフの力が不可欠である。自分だけではない、全員での国試合格を目標としている本校ならではの、「同じ釜のメシを食う」をコンセプトにしたこの活動、及び昨年度の3年生における教育方針などを合わせて報告させていただく。